

「第4回補助事業に関する第三者委員会」議事録要旨

1. 日 時：平成17年6月27日（月）
午後1時30分から午後4時00分まで
2. 場 所：独立行政法人農畜産業振興機構 北館6F大会議室
3. 議 題：(1) 平成16年度補助事業の実績等について（達成状況等）
(2) 平成17年度補助事業の実施状況について（審査状況等）
(3) その他
4. 出席委員：大木委員、鈴木委員、永木委員、宮崎委員
5. 農林水産省出席者：本藤生産局総務課課長補佐ほか
6. 役職員出席者：山本理事長、米田総括理事、伊藤総括理事、和田理事、山口理事、小林理事、津崎理事、山端監事、渡部監事ほか
7. 開会等
和田理事が開会を宣言した後、山本理事長が挨拶で、16年度の機構業務の適正化及び効率化等、農畜産業をめぐる動向と関連対策、補助事業の費用対効果分析手法及びコスト分析手法の導入等について述べた。
これに引き続き宮崎座長は、議事要旨の公開について、委員会の終了後、委員の了承を得た上でホームページに公開したい旨を提案し、各委員の了解を得た。
8. 議 事
和田理事から議題（1）平成16年度補助事業の実績等について、議題（2）平成17年度補助事業の実施状況について、それぞれ配布資料に基づいて説明した後、質疑応答を行った。

・質 疑

[議題（１）平成16年度補助事業の実績等について]

（大木委員） 畜産副産物のレンダリング処理について、その内容をもう少し詳しくお聞きしたい。

（小林理事） と畜場からは、骨、内蔵、脂等残さが出ます。残さにはそれぞれの用途に違いがあり、用途にあわせて脂と脂以外のものに分ける作業が行われ、それぞれ利用されている。今現在、牛の場合はBSEの関係で焼却処分をしなければならない。

（鈴木委員） 優良種畜高度利用の奨励金の交付事業について、この交付金が今後廃止される見込みであるとも聞いている。この交付金は非常に役に立っており、廃止の方向で検討されていることについて、その背景と廃止されたことによる影響をどのように考えているのか教えていただきたい。

（山口理事） ご指摘のとおり17年度からこの事業の一部を変えるということで進んでいる。16年度までは、優良な雌牛にリストの上位に登録されている優良な雄牛のものを種付けした場合に奨励金を払うという内容であったが、17年度からは、後継の雄牛の育成を図るための事業に変えていこうという構想である。今後長年にわたって優良な種雄牛を維持していくためには、後継雄牛の育成に努める必要があること、また、予算の財源が徐々に厳しくなってきたという事情もあり、新しい仕組みに変えていくということにしている。

（大木委員） ○（事前に送付した資料について）学校給食の供給事業の全国平均供給日数について、16年度は15年度から僅か0.3日程度の向上となっている。説明を伺うと、一生懸命実施しているのはわかるが、0.3日程度というのは、「横ばい」と見るのではないか。

○ 飼料増産受託システム確立対策事業の「コントラクターによる作業の平準化を図るため、以下の作業を行った。」と記載があるが、平準化は何を指すのかわかりにくい。

○ 高品質実験動物生産体制確立推進事業の高度技術者養成研修会研修終了試験について、合格者の具体的な目標を設定したことについては評価できるが、合格率が低いように思われる。受験者はどういう方々か。

（和田理事） 作業の平準化とは、酪農家の繁忙期にコントラクターが酪農家の牧草の刈り取りなどの作業を受託することにより、酪農家は通常どおりの作業の水準で経営が出来るということを意味している。この平準化とは、コントラクターの平準化ではなく、酪農家の作業を平準化するという意味である。

(小林理事) 高品質実験動物生産体制確立推進事業の高度技術者養成研修会の出席者は、薬品会社の関係者、検査機関の方、実験用に動物を飼っている学校関係者などの方々に、40名が出席し、実験動物1級技術士資格認定試験に31名が合格した。

(永木委員) 高品質実験動物生産体制確立推進事業の事業効果について、目標値をとって実施するのは、評価する側からすると非常に評価しやすいし、透明性もあると思う。他の事業でも将来的に少しこういった試みをされてはどうか。ただ、あまり数字に縛られるようになると弾力性がなくなるので、そこは注意が必要だと思う。

(宮崎委員長) ハリガネムシの捕獲機は、どの程度の面積に一つ置くものか。

(津崎理事) 1ヘクタール当りに大体1個置いている。

[議題(2)平成17年度補助事業の実施状況について]

(永木委員) ○ コスト分析を行うに当たっては、事前にデータが揃っていることが前提となるが、大体データは揃っているのかどうか。

○ 行程管理については、事務処理を急ぐことよりも途中の行程で簡略化できるところがないかを検討することも大切と考える。途中の事務手続きのどこかの段階にボトルネックがあったら、こちらの川上側がいくら頑張っても、川上側の努力が成果にならない。そういう点の点検はしているのか。

(和田理事) コスト分析については、既に過去の実績を洗い、順次その中で最終的な数字はどうかということを検討して、私どもの一つの指標として整備を進めているところである。ただ、まだ全部を十分には整備できていないので、また研究会の意見も伺いながら実施したい。

(鈴木委員) 機構が今ある手続を執行機関としてきちんと実施させるため手続の厳密化を図ることは重要だが、逆に何処を節約すればもう少し早く事業が実施できるかどうか、機構の業務量を減らせるかどうかという点で、簡素化の観点から手続そのものを変更することを検討してはどうか。

9. 閉会

最後に、宮崎座長が他に意見等がないことを確認し、閉会を宣言した。

以上のとおり、議事の経過概要及びその結果を記載して、ここに議事録を作成した。